

受賞の言葉

## 現場でも使える実証ミクロ経済学



アマゾンジャパン合同会社シニアエコノミスト 渡辺 安虎

このような賞を頂けることは大きな喜びであり、今後研究を続けていくうえでも励みとなります。これまで共に論文を書いてくれた共著者たちに感謝したいと思います。

昨年、実証ミクロ経済学の道具がどこまでビジネスの現場で使えるのか試してみたくなり、大学から民間企業に移りました。ビジネスの現場のプレッシャーの下で戦う同僚達に、自分の仕事がそしてミクロ経済学の道具が日々お役に立てることを、とにかく楽しく感じています。

もともと経済学は実験ができなかったがゆえに、データから因果関係を抜き出すことに知恵を絞ってきた学問です。プロモーションに自発的に参加するお客様は他のお客様とはそもそも行動が異なり、プロモーションの効果の測定は単純ではありません。しかし、これは経済学が政策評価の分野で何十年も取り組んできた問題と同種の問題です。また、実験で因果関係が分かることはよくありますが、単純な A/B テスト（ランダム化比較対象実験）を行えない状況は多々あり、因果関係を引き出すためのテストデザインにも経済学の道具は非常に有用です。そして、そもそも未実施の施策（例えば会員プログラムの内容変更）がどのような結果を生むのかを、推定したミクロ経済学モデルに基づき反実仮想実験する構造推定アプローチは実証ミクロ経済学の真骨頂であり、ビジネスでも政策の現場でも直接役に立ちます。

一方、日本ではこの実証ミクロ経済学の道具の有用さが企業や政策担当者にまだあまり理解されていないとも感じます。米国や中国の IT 企業がこの数年早いペースでミクロ経済学者を直接雇用しているのに対し、日本の企業ではこのような動きは非常に限定的です。政策に関しても、例えば公正取引委員会にはチーフエコノミストのポストはなく、経済学者も数えるほどしかいません。ミクロ経済学の有用性が社会により広く認識されることで、大きく変化していく余地があるのではないかと思います。そのためにも、今後ともビジネス・政策の現場には実証ミクロ経済学の知見と道具を、そして経済学者には現場の分析ニーズを、相互に伝えることに少しでも役に立てればと思っています。

わたなべ やすとら

98年東京大卒。ペンシルベニア大Ph. D. (経済学) 取得。ノースウェスタン大ケロッグ経営大学院助教授、香港科技大学ビジネススクール准教授などを経て、17年からアマゾンジャパン合同会社シニアエコノミスト。主な論文に “Inferring Strategic Voting” (共著、*American Economic Review*)、 “Delivering Bad News: Market Responses to Negligence” (共著、*Journal of Law and Economics*)、 ”Do Risk Preferences Change? Evidence from the Great East Japan Earthquake” (共著、*American Economic Journal: Applied Economics*) などがある。1974年愛知県生まれ。